

かながわトラスト緑地・ヤマユリ自生地再生チャレンジ始動

『かなユリ・チャレンジ』



▲トラスト緑地に咲くヤマユリ

財団事務局に会員の方から一通のお手紙をいただきました。そこには、昨年起きた「津久井やまゆり園」での大変痛ましい事件のこと、ご自身も障害のあるお子様を施設に預けることへの葛藤と不安、そして事件のトピックスとして「ヤマユリ」という文字がニュース記事に出るたびに悲しみつつ、その昔には、どこにでもヤマユリが咲き誇り、人々を楽しませていたことを思い出し、その昔のヤマユリが咲く里山の情景を地元で復活してもらえないかという内容でした。

ヤマユリは神奈川県を県花として県民に愛され、その容姿の美しさが讃えられるほど、里山を彩るシンボリックな存在です。しかし現在、財団で保全する県内のトラ

スト緑地で調査したところ、数か所で見られるだけでした。

この手紙をきっかけとして財団では、トラスト緑地でヤマユリの自生地を再生する事業を開始します。

この事業では、林床の環境を整える草刈等を実施するほか、緑地でヤマユリの球根や種を採取し、平塚市の社会福祉法人進和学園へ栽培・育成を依頼します。そこで増えた球根を緑地に戻す事業を展開し、自生地を回復させていく予定です。

昔、里山で見られたヤマユリが咲く風景を復活させ、多くの人々の心を癒し、地域の憩いの場所として再生していければと考えています。

ヤマユリは宿根草で数年育成して開花が見られる植物のため、自生地再生は大変時間がかかりますので、持続的に取り組みながら、機関誌ミドリで報告していきます。



▲財団西ヶ谷専務より進和学園メンバーへ贈呈



▲進和学園敷地にて球根を植え付けました

お手紙

※お手紙の内容を一部割愛したものを掲載しました

かながわトラストみどり財団様
2016年8月1日

梅雨の明けたような、まだ明けられないような 昨今でございます。

私の娘は重度のダウン症で、今年3月より隣町の施設に入所しました。娘は45才で歩くのが早く元気で、主人が亡き今、2人で生活してきましたが、80才の私がついて行けなくなり入所をお願いしました。

娘は言語理解が困難でどう説明したらよいかわからないまま、施設に入所させました。5月の連休で一時帰宅後、施設の前で騒動してしまい、前から知っている同室のお友達の名前「○○ちゃんが待っているよ」と言ったら、クルリと後向き、私の手を離し、施設へもどってくれました。

そんな有様に私も時々、涙を流していましたが、2016年7月26日の事件以来、ラジオ、テレビ、新聞等

見聞きする度、涙が止まりません。

42年ほど前、神奈川県へ越してきて、小さい娘を連れて児童相談書や福祉事務所などで相談を受けるところで「津久井やまゆり園」や、「ヤマユリ」が県の花であることを知りました。

越してきた我が家の隣には、小高い森の崖にヤマユリが咲き、毎年楽しみにしていたのに、今は見つかりません。

近くの神社の斜面地にも3～4本ありましたが、今年は半分になっていました。

私の希望なのですが、このたびの悲劇を悼み、ヤマユリの花を各町で絶滅させないように、保護する場所を作っただけでいいのでしょうか？

弱い立場の人達も、仲間として受け入れる寛容な心を育てる場所となればと願います。この人達もそれぞれの人の能力で一生懸命いきているのですから。

皆様のご活躍、お祈り申し上げます。